

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470300460		
法人名	医療法人 英然会		
事業所名	グループホーム・み里		
所在地	中津市中央町1丁目8番36号		
自己評価作成日	令和2年10月13日	評価結果市町村受理日	令和3年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4470300460-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府吉番館1F
訪問調査日	令和2年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・田園に囲まれた静かな環境の中で、その人らしい暮らしが安心して出来、共にいきいきと生活出来る環境づくりを行っています。・地域での行事(保育園の生活発表会)に参加し、英然会での行事(お花見、夏祭り)に参加して頂いている。・入居者の状態を隣接の診療所に報告しておき、特変があればすぐに対応出来るよう連携を図っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>同じ敷地内に母体となる医療法人や介護施設が隣接し、地域交流や災害対策・健康管理・専門医受診(オレンジドクター)・職員育成等に連携を発揮しています。事業所は2階建て2ユニットでホールが広めである為、利用者の移動が歩行訓練にもなり残存能力を維持するのに役立っています。ゆとりのある生活空間の中で、個別の暮らしの維持や充実を意識した日々の関わりを大切に支援に努めています。地域やボランティアの方々との交流も重ね、それぞれの行事(夏祭り・お接待等)の参加や保育園児との交流等地域との付き合いを大切に取り組んでいます。母体が医療法人であることから、重度化や終末期の対応も医師・看護職員との連携があり、家族・職員の安心と信頼に繋がっています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム・みりの理念を作成している。年度初めに年間目標を作成し、職員全員が共有できるようにホール、会議室に貼りだしている。	理念を3項目①地域交流②尊重～③身体拘束をしない介護を掲げ、会議で振り返りや話し合いの中で年度目標を作成、ホールや休憩室に掲示し共有と実践に繋げています。利用者の自分でやれるところを尊重し、見守りと支援の見極めを心掛けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1回地域の自治会・老人会・役員の方と一緒に花見会を行っている。8月に地域交流の夏祭りを行いたくさんの方に参加して頂いているが、今年はコロナ感染対策のため中止した。	事業所と地域はお互いの行事参加や運営推進会議の情報交換を通し、密接な関係を構築しています。現在は感染予防対策のため交流は中止していますが、年4回の広報誌の配布と自治会への回覧や市報にて関係を継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として地域中学生、高校生の職場体験実習を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域と事業所が相互の関係を築いていけるような話し合いが行われているが、今年3月からはコロナ感染対策のため開催出来ず、電話で意見を聞き、資料の配布にて対応している。	会議には自治会・行政・家族・事業所代表等のメンバーが参加し2ヶ月毎に開催されていますが現在は開催できず、電話連絡で意見を聞き資料・議事録をメンバーに配布しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事や相談がある時は電話で対応している。	市の担当者・地域包括支援センター・民生委員等とは運営推進会議で情報交換を行い連携を取っています。問題事や相談には市の担当者のアドバイスを頂き問題解決に向け、共に取り組んでおり、協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が意識を持ちながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束をしない介護」を理念に掲げ、職員は身体拘束及び虐待に繋がる行為や弊害を理解しケアに入っています。研修会や会議での勉強会・カンファレンス等で全職員に周知し、意識の強化を図っています。	入浴介助時の職員が一人体制になる等手薄な時間帯の見守り方法を再検討され、より安全な生活を支援することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議室に高齢者虐待についての紙を貼りだし職員の目に触れるようにしている。職員全員が意識を持ち対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ここ2年間参加出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居者家族に不安な点、疑問点を尋ね十分な説明を行っている。また、グループホームについて利用料金、重度化や看取りなど医療体制についても詳しく説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが意見が出ないため面会時に尋ねている。英然会苦情接遇委員会より年に1回アンケートを取り、入居者家族に意見を聞いている。また、反映できるように取り組み、内容を明記している。	利用者の意見は日常接する中で把握し、家族には運営推進会議や来訪時には積極的な声掛けや、利用者の話題提供等を行い発言し易い雰囲気づくりに留意しています。出された意見は早急に運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署の責任者が月1回の運営会議で意見を出し合っている。	管理者は、毎日の申し送り時や、業務中に、職員が意見や提案を出し易い環境作りを心掛け、出された意見を検討し、出来ることから速やかに事業運営や改善に反映させています。	法人の責任者及び管理者は職員との個別面談や職員アンケート等を行い忌憚のない意見を聞き運営に活かすことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営会議で話し合いを行い、休日日数について見直しを行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医)英然会内の各研修に積極的な参加を促しているが、今年3月からはコロナ感染対策のため資料配布で対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会や認知症研修会に参加した際に、他事業所の職員と情報交換が出来、自施設の取り組みの参考にさせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に対しての相談があった時は、本人に会って心身の状態や思いを把握し、安心していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者がこれまでの経緯についてゆっくり聞いている。また、家族の状況を把握する事により信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案、信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを共有し、入居者から昔の話を聞いたり、分からない事を教えてもらったり、一緒に食器洗いや洗濯物干しなどを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者の日々の暮らしの出来事や気づきを報告し、情報の共有に努めている。ここ何カ月間は面会できず、本人の様子を電話で伝え、家族とも電話でおしゃべりしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人、知人が来られた時は、部屋やホールで過ごせるように環境作りをしている。ここ何カ月間はコロナ感染対策のため面会は控えて頂いている。	入所期間が長くなるにつれ、入所前からの馴染みの人や場所との関係の維持は難しくなっており、家族の協力を得て外出は実施しています。外泊は感染予防の為現在は中止しています。同時に入所後に作られる「馴染みの場所」も意識して支援するよう心掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った入居者同士が自由に過ごせるように居場所や雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病棟に転院された方には、様子見や家人への声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発した言葉や表情・態度、言葉などから思いを読み取り把握に努めている。介護計画の立案時には再度本人・家族の希望、意向を確認している。	利用者一人ひとりの思いや意向は、言動・表情等些細な事を見逃さないよう把握に努めており、気付いたことは、すぐに管理者と職員で連携を取ることを徹底しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族にこれまでの生活歴、個性や価値観、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、職員全員が本人の全体像を把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテや介護計画、申し送りノートなどを各自がチェックし、現状を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映できるように心がけている。ミーティングや毎日の申し送り時に職員で意見交換を行い、共有を図っている。	主治医や看護師・担当職員等、多職種で意見を出し合い、利用者本人が望む生活が出来るように介護計画を作成しています。基本的には6ヶ月毎の見直しですが、状態が変化した時はその都度検討し見直しを行い、家族の意見も参考に作成し説明しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に3カ月毎の介護計画の評価、6カ月ごとの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ通院など必要な支援を行っている。医療処置が必要な場合、外来や病棟と連携を取り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて入居者の様子を伝え、地域の方から情報ももらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に本人、家族了承の上、かかりつけ医は併設病院となっている。年に2回の健康診断は家族付き添いで行っている。受診できない方は往診を行っている。	かかりつけ医は、入所時に本人・家族の同意のもと母体の医療機関(内科)となっており、耳鼻科や歯科等他科受診の時は職員が同行受診をして家族に報告をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外来、病棟との支援体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の生活状況を職員が共有できるように面会を行っている。早期の退院ができるように家族の意向を含め、入院先との相談、関係者との連携を深め調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針を作成し、入居時や状態が悪くなった時に意向・同意を得ている。状態の変化によりその都度家族、Dr、看護師と相談し出来ることへの支援に取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方について、契約時本人・家族に説明し同意を得ています。状態の変化に合わせ家族、医師、看護師と連携を図りチーム全体で支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の緊急時対応マニュアルを作成し各職員は内容を把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導で非常防災災害訓練を行っている。また、地域の方にも災害時の協力を依頼している。	年2回消防署の協力のもと法人施設と連携して避難訓練を行っています。運営推進会議において地域の方へ協力の依頼をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会などで接遇について学び、日常生活での関わりに活かしている。また、個人情報やプライバシーについても漏洩防止に努めている。	人権擁護や接遇に関する勉強会を行い、日々誇りやプライバシーを損ねない支援を心掛けています。職員間で声を掛け合い確認しあって対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で各自の希望を聞き、自己決定できるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望やその時の気分に合わせ1人1人のペースに合わせるよう心がけている。行事、レクレーションにも無理な参加は勧めず自己決定を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と美容室に行く方、お気に入りの化粧水を使っている方などおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立を読み上げ食欲をそそり、一緒に食事をし、食後は食器洗いと食器ふきをみんなで行っている。誕生日には本人の食べたいものを尋ね、当日喜んで食べてもらっている。	食事は法人の厨房で作られ、ホームで配膳し利用者と職員と一緒に食事をしていましたが、現在は感染予防の為テーブルを分けています。誕生日には本人の希望を取り入れ喜ばれています。食後は食器洗いやお盆・食器拭きのお手伝いをされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時、15時、入浴後の水分補給以外にも随時お茶や好きな飲み物を勧めている。嚥下状態の悪い人にはペースト・きざみにし、水分はむせないようろみを使用している。また、高カロリーゼリーを使用するなどの工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいが出来ない方にはガーゼを使用し清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンや排泄の有無を把握し、タイミングを図りながら声かけ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。	一人ひとりの状態観察や排泄パターンにより排泄リズムを把握して声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を促し、気持ちよく過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を行い、レクでは手遊び、歌なども取り入れ、適度な運動、十分な水分摂取などで便秘予防に努めている。排便困難な方には緩下剤で内服コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体機能の状況に合わせて介助や見守りを行い、時間にゆとりを持たせ入浴を楽しめるよう支援している。拒否のある方にはタイミングを図りながら声かけし、応じないときは日にちを変えたりして無理に入浴を勧めないようにしている。	入浴は、基本週3回となっていますが、一人ひとりの生活習慣やその時々希望を大切に对应しています。入浴拒否の方には声かけを工夫したり入浴日を変更して、本人の意向に添った支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝が習慣になっている人には声かけて休んでもらったり、1人1人の睡眠パターンを把握し、トイレの声かけをしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカルテにつづり薬品名、作用などを職員が確認出来るようにしている。各自の薬を管理し毎食前後に服薬確認を行っている。病状の変化があれば受診をし、薬の変更を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の力を発揮してもらえるようにその人その人に合った仕事をお願いし感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出たい方は職員と一緒に庭の散歩を行っている。また、家族とお墓掃除に行ったり外食したりもしている。	法人の敷地内にある桜やアジサイを見たり、日頃は敷地内を散歩し外気に触れ気分転換を図れるよう努めています。コスモスや紅葉を見にドライブに出かける事もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方もいるが、使う事はなく、職員が代行して買い物をしている。買ってきた品物とレシートを家族に見せるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に伝える事がある時や家族から電話がかかってきた時は本人と話が出来るようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、各ユニットのフロアに季節に合った植物を飾り、入居者と一緒に作った季節ごとの創作作品をユニットフロアの壁に飾るなど季節感が出るように配慮を行っている。	利用者が動きやすいように、家具の配置に工夫がみられ、広いホールには季節の花、利用者と職員の共同制作の季節の作品が飾られ和やかな居心地よい空間づくりが随所にみられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットのフロアにソファを置き、入居者同士が気軽に会話が出来るようにしている。フロア内で横になれるように各ユニットにベッドを設置し、ソファやベッドで休まれたり思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら使い慣れたもの、好みの物を持ち込まれ入居者の居心地の良さに配慮している。	居室には、テーブル・テレビ・仏壇・ラジオ・ぬいぐるみ等の使い慣れた馴染みの品を、壁面には家族の写真・水墨画・ポスターが貼られ、居心地よく落ち着いて過ごせる配慮が見られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレとお風呂場に見やすいように大きい字で書いている。		